



四日市市立大矢知興譲小学校
校長だより 9号 R8.8.17

夏休みは残り15日となりました。子どもたちには、この休みだからこそできることに、ぜひ挑戦してほしいと思います。地域の行事に参加する、自然に触れる、興味のあることを調べてみるなど、内容は何でもかまいません。普段の学校生活ではなかなかできない体験を、子ども自身が選び、自分の心や体で感じる時間に。動画を見て過ごすだけでなく、実際に手を動かしてみてください。

さて、夏休みは、私たち教職員にとっても1学期を振り返り、2学期に向けて学び直す大切な時期です。1学期、各学級では、子どもたち一人ひとりを大切にしながら、さまざまな「なかまづくり」の取組が進められてきました。私も先生方とともに実践を振り返る中で、子どもたちの成長や、それを支える先生たちの工夫に多くのことを感じました。

そこで、今日から3号にわたって、本校が大切にしている「なかまづくり」の取組についてお伝えします。

子どもを見る目を育てる

夏休みは、先生たちにとって、1学期の教育実践を振り返り、2学期に向けて学び直す時期でもあります。私もこの夏、先生方が共有し合った1学期の取組を改めてじっくりと振り返ってみました。

そこには、32の学級それぞれのドラマがありました。

友だちとうまく関われずにいる子、学習に不安を感じている子、自分の思いをうまく言葉にできない子、一人で過ごすことを好む子……。先生たちは、目の前に表れる姿だけでその子を判断するのではなく、「なぜ、この子はこうするのだろう」「本当はどんなことを思っているのだろう」と、その背景にある思いや願いを知ろうとしていました。

例えば、子どもとの対話や保護者との懇談を重ねることで、それまで見えていなかった子どもの一面に気づいていきました。また、日々の子どもの言葉や行動を記録する中で、「できなかったこと」ではなく、昨日より少しできるようになったことや、その子なりに頑張っていることに目を向けるようになっていきました。

私がうれしく感じたのは、先生自身が自分を振り返っていることです。

「もっとみんなと同じようにできるように」と願っていたけれど、それは教師の願いを子どもに求めていたのではないか。子どもの行動を変えようとしていたけれど、まず自分の関わり方を変える必要があったのではないか。そのように自分自身の子どもの見方や接し方を問い直した実践が、いくつも共有されました。

本校では、「私が変われば子どもも変わる」という考え方を大切にしています。

子どもを変えようとする前に、まず教師自身が自分の見方や関わり方を振り返る。「困った子」と見るのではなく、「困っていることがあるのかもしれない」と考えてみる。そうすると、それまでとは違った子どもの姿が見えてくることがあります。

子どもたちが学び続けるように、私たち教師も学び続けます。一人ひとりの子どもをもっと知りたい。その子の思いや願いをもっと理解したい。そんな先生たちの姿を、1学期の実践の中にたくさん見つけることができました。

学校ホームページ「学校の様子」をよろしくお願いします！

学校ホームページ「学校の様子」から、いろいろな情報を発信しています。AI を使い、やさしい日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、ネパール語版も添えています。「学校の様子」または「新着情報」からお入りください。



https://www.yokkaichi.ed.jp/~ohyachi/cms2/htdocs/?page_id=250

「興譲」は保護者のみなさまに Home & School で配信するとともに、地域のみなさまに向けて学校ホームページ「学校の様子」（上のリンク）でも発信しています。